

令和5年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立栄小学校

●全国学力学習状況調査(小学校第6学年)

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	29.9	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は都より4ポイント上回っている。内容ごとにみると、知識・技能の項目「情報の扱い方に関する事項」は5.9ポイント、思考力・判断力・表現力「話すこと・聞くこと」は6.6ポイント上回っている。令和2年度までの「国語科 話すこと・聞くこと（カリキュラムマネジメント）」や令和4年度「GIGA推進教育」を校内研究で行ってきた成果であると考えられる。 記述式も都平均を6.8ポイント上回っており、教材研究を行い、児童の実態に応じたテーマでの取組を重ねたことの成果であると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に応じたテーマで、自分の考えをもつ学習の取組をさらに発展させ、他教科とも関連して、さまざまなテーマで自分の考えをもつことができるように指導する必要がある。 学習者用端末の使用が増え、自分の意見を発信しやすくなる一方で、実際に文字を書く機会が減っている。そのために、漢字の書きができていない。漢字の書き取りが定着するように、副教材を活用し、反復練習を行う必要がある。
	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい)	56.3		
	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	65.5		
	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す(きかん)	65.5		
算数	2(3)切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く。	36	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は都より2ポイント上回っている。領域別にみると、「数と計算」は2.1ポイント、「データの活用」は2.5ポイント上回っている。基礎的な内容の復習の時間を設け、学習者用端末を用いて反復練習を行っていることや、少人数指導で個の課題に応じた指導を行っていることが学習内容の定着につながっていると考えられる。 思考・判断・表現や記述式も都平均を上回っており、全体として無回答率も減少している。自分の考えをノートに筋道立てて書き表したり、ペアやグループで話し合ったりする活動の成果と言える。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形の学習では、図形を頭の中でイメージできないことが考えられる。具体物を用いて実際に操作する算数的活動を取り入れていく必要がある。 割合の学習では、問題に応じて自分で正しく演算決定ができない、概念を理解していないことが正答率の低さにつながっている。数直線などの図を根拠に演算決定する指導が必要である。 式と場面を関連付けて読み取る問題や、判断して選んだわけを書く問題で正答率が低い。苦手な児童に対して、図と式を色分けで対応させたり、言葉を整理したりするなどの手だてを
	2(4)テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く。	20.9		
	3(4) $66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の銃の位に当たる式を選ぶ。	53.5		
	4(1) 示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ。	52.3		